

いちず いっしん

# 一途一心

平成24年5月21日 NO.12  
茅野高校生活指導係



## 心の目

### ～見えないものを見る努力～

「心には目がある。

目をあけていて、目の前に人がいるとわかるのは普通。

目を閉じていて、人のいるのも、車が通るのもわかる人は勘のいい人で、そんな人はいつでも心の目をあけている。

心の目をひらいていない人は、人の心が読めないから、人に相手にされないし、友達もできない。

人と接するとき、少しのやいと少しでも、心を全部、心の目をみんな、その人に向けるように。

少しのことなら、少しの心に向けるとよいなど考えてはいけない。」

(灰谷健次郎著:天の瞳より)

残念ながら、4月から現在までにトイレ内での器物損壊が6件も起きている。

生徒総会后に私が話した、これまでの対応と現在の措置に関し、その場で生徒の意見を聞き、反応を見ることができた。また会の終了後、多くの方からご意見をいただいた。

私が君たちに伝えたいことは、単純に「物を壊すな」だけではない。

誰にも分からぬように、平気で公共物を壊し、平然としていられるような生徒が本校にいるということが悲しい…

壊されたスイッチを、悲しい顔で直している先生の姿を見るのが切ない…

その「見えない姿や思い」を想像できない生徒がいることが悲しい…

生徒を疑わざるをえないこの状況が悲しい…

閉鎖という措置に関し、さまざまな意見があるだろう。

過去に閉鎖をしたことで、不便を強いられ、憤りや困惑を多くの生徒が表した。

人は、自分の範ちゅうに事が及ぶまで無関心を装うことが多々ある。

今回の件も同様だ、と私は感じた。

だから、5回目の損壊時に次回は閉鎖をする旨のふれを出し、6回目には閉鎖を強行した。自身に降りかかる不便という現実を強引につくることで、全校生徒の問題として捉えさせたかった。

現在は集会での約束どおり、閉鎖を解除している。こちらは約束を守る。だから君たちにも強要する。我々の思いを「心の目」で見る努力を。もうこのような悲しいことしないことを。

